

## 研究内容とは？

専門は西洋近現代美術史です。その中でもとりわけ二〇世紀美術におけるコラージュを中心に研究しています。コラージュというのは、異なる様々な要素を引用したり、組み合わせたりして制作する技法です。写真を組み合わせたフォトモンタージュ（合成写真）や、文字通り「切り貼り」を意味するパソコンの「カット&ペースト」も、コラージュの一種で、現代世界自体がコラージュとも言えるのです。コラージュについては、フランスの博士論文をもとに出版した『切断の時代——20世紀におけるコラージュの美学と歴史』に詳しく書いてありますので、興味のある人は読んでみてください。この本に関しては、最初フランス語で書いて、そのあと自分で日本語に訳すという不思議な体験をしました。この本は、調査したりする期間を含めてだいたい一〇年かかり、執筆するだけでも二年間毎

## Professional

人間文化プログラム

こうもと まり  
河本 真理 先生

Sougou Kagaku



日書いていた記憶があります。『切断の時代』は、中央図書館のフェニックス文庫に入っています。

## 研究までの道のりは？

最初にコラージュを見て面白いなと思ったのは、学部生の時に行った、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) で開催されていた High & Low: Modern Art and Popular Culture という展覧会です。そこには多くのコラージュが展示されていて、クルト・シュヴィッターズ (1887-1948、ドイツの芸術家) のコラージュに初めて出会ったのもその時です。元々美術史を学部で専攻していたのですが、学部四年生の時に一年間休学して、ロータリー財団奨学生としてフランスのパリに留学しました。その際、日本にいた時以上に美術史の面白さに目覚め、もっと深くやりたいと思うようになりました。やはり私は井の中の蛙だったなと (笑)。その

後、いったん日本に帰り、東京大学の修士課程を終えてから、パリ第一大学の博士課程に留学しました。二度目の留学は一〇年に及び、このとき博士論文を書きました。こうした留学を経て、実は日本美術も面白いと思うようになったのですが、西洋に行くとは逆に日本美術の魅力に気づくものです。『切断の時代』の最後に、日本のコラージュも研究したいと書いたのはそういうことです。日本ではすでに平安時代に、料紙を貼り合わせ、その上に和歌を書いたコラージュと呼べるもの (『西本願寺本三十六人家集』) があるので、これについてもいざれ詳しく書きたいです。乞うご期待というところです。

## 学生時代は？

学生の時はロックバンドをやっていた、Après-midi (アプレミディ) というガールズバンドを組んでいました。パートはヴォーカルとキーボードです。

## Professional Introduction

四年間続け、青春を謳歌したので、悔いなしといったところで、バンドが解散した後も、カラオケに行った時はシャウトしていました。最近はまだあまり歌わないので錆ついているかな(笑)。フランスに留学していた時は、ステュディオというタイプの一人暮らし用のアパートに住んでいました。パリで現代美術を扱っているポンピドゥー・センターのすぐ近くに住み、この図書館に通い続けました。最初慣れないうちは、街でパン屋のおばちゃんにフランス語を直されたりしましたね。一〇年以上前に直されたことを今でも覚えています(笑)。フランス人は、言葉に対しては厳しくて容赦なかったですが、今ではそのことに感謝しています。あと、パリでよかったのは、それぞれの違いを認めてくれたというところで、とても心地良く感じました。パリは、幸いにして戦火を逃れたので、歴史ある街並みがあるまま残っています。街自体が芸術とも言えるので、歩いて

昔は美術鑑賞と答えていましたが、今は趣味が仕事になってしまいました。パリにいた時は、よくコンテンポラリー・ダンスなどを観に行っていました。

## 自慢の品

『切断の時代——20世紀におけるコラージュの美学と歴史』第29回サントリー学芸賞と第24回渋沢・クロード賞 ルイ・ヴィトンジャパン特別賞を受賞しました。ただし、ヴィトンのバッグはなし(笑)。

なお、今年三月頃に『葛藤する形態——第一次世界大戦と美術』(「レクチャー 第一次世界大戦を考える」)を出版する予定です。

## 趣味

## 座右の銘

七転び八起き

生まれ変わってなりたい職業  
純粋な研究者。研究や執筆だけやれる人。いまどきいませんけどね。

## 広大で好きな場所

マーメイドカフェ。総科周辺にも作ってほしいですね。

## 担当科目

ベーシック・フランス語Ⅰ・Ⅱ／総合コミュニケーション・フランス語ⅠA・ⅡB  
美術史演習B／ヨーロッパ文化論演習  
芸術学B  
人間存在基礎論



著書を持つ河本先生

## 働くということとは？

いるだけでも楽しかったです。皆さん、是非パリを訪れてみてください。

責任を伴うということなので、きっちりやっていかなくてはならないと思います。あと、働き出すと自分自身の時間を取るのが大変になってくるので、今のうちに勉強しておいたほうが良いですよ(笑)。私も同じことを言われて、その当時はピンとこなかったのですが、今になってひしひしと実感しています。

## 総科生にメッセージを。

総科の学生さんは、幅広い興味関心をもつのは大切ですが、広く浅くではなく、自分にはこれができる、というものを見つけてほしいと思います。自分の核(コア)になるものがあってこそ、幅広い知識や関心が活きます。言うことに説得力が生まれるのです。コアなくして広げると、つまみ食いばかりということになってしまいます。そうではなく、まず核となるものがあって、そこにあらゆるものを取り入れて、勉強や研究を豊かにしていくてほしいですね。

【担当】21生 林田 啓誉

21生 久住 忠彦

## 研究内容は？

基本的には現代英語の文法と語法研究です。また辞書の編纂の仕事もしています。コーパスという言語の電子データベースを用いて、現代英語の語法・文法を分析し、その内容を辞書に反映して記述するものです。そうすると客観的な内容を辞書に盛り込めるので、より使いやすいうものができます。例えば類義語について具体例を挙げると、sleepとfall asleep→go to sleepの違い。どれも「眠る」という意味だけれども、それぞれ使い分けがあります。使い分けられているから3、4通りの言い方があるのであって、もし全部同じなら、もう廃れて無くなっているはずですよ。そして、それらが現在どうやって使い分けられているかというのを、コーパスを使って分析していくのです。

## 研究までの道のりは？

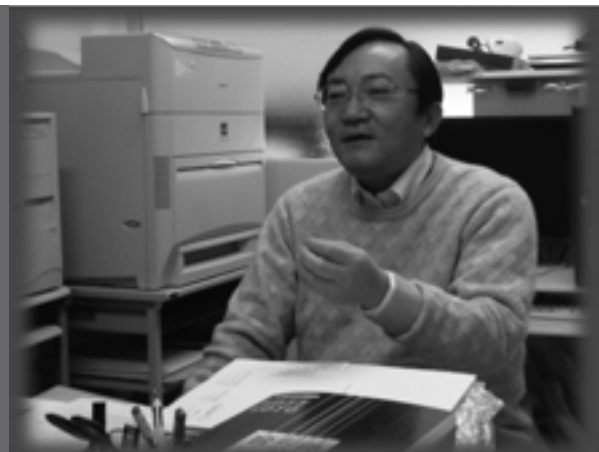
中学生の時に通っていた、塾

## Professional

## 言語文化プログラム

いのうえ ながゆき  
井上 永幸 先生

*Sougou Kagaku*



の先生の影響です。その人は語法研究家で、常にワールドワークをしている人でした。塾に行くと、テブールの上にはいつもアメリカなどの文芸雑誌や海外の英語の辞書が積み上げられていて、質問すると常に資料とともに答えが返ってくる、そういう先生でした。その先生は当時、辞書に用例などのデータを送っていて、先生の名前もそこに載っていたので、地元の尾道のような小さな町にもすごい先生がいるんだなあ、という感動を受けました。それで高校三年の時から、英語雑誌の文法質問コーナーに投稿するようになりました。そのコーナーの回答を担当する専門家で、小西先生という方がいて、僕はその先生のファンでした。だから、小西先生を名指ししてお願いしていました。そして学部4年の時、大学院に入る前の僕に、今辞書を作っているので手伝いませんか、という形で先生からオファーが来たんです。雑誌に投稿していたのを覚えてくださっ

## 学生時代は？

ていたんですね。それがジョニアスという辞書だったんですが、それをきっかけに辞書の仕事をしようになりました。大学院に入ってから卒業するまで、さらにいくつかの辞書を手がけ、島根大学に就職が決まると「若手在外研究員」に選ばれ、イギリスとノルウェーに行きました。そこでコーパスの最先端の技術を勉強したので、その技術で辞書を作りましょう、というオファーが出版社からありました。三省堂のウィズダムというのがそれです。こうして、コーパスを使って語法文法研究と、辞書の編纂をするようになりました。

経済的な余裕がありませんでした。というのも、辞書や専門書などが好きだから、新しいのが出たら次々に買っていたからです。いつもお金があるとは限らないので、例えば昼ご飯を抜くとか、そういう感じで節約しながらやっていましたね。辞

## Professional Introduction

書の中には1万円超えるものもあるんですよ。だから、けっこう大変でした。学部生の時はアルバイトをしていませんでした。ときどき友達と遊んでいましたが、基本的には勉強してしたので。大学院生の時は仕送りがなかったので、アルバイトをしました。また、その時にアメリカのサンフランシスコへ留学しました。

### 働くということとは？

社会に出るということです。学生の時だとまだ社会に大目に見てもらって、親の庇護の下にある。これは一種独特のステータスで、社会に出るとそれがもう通用しなくなって、なんでも全部自分でやらなければならなくなる。経済的に独立する必要があります。経済的に援助があると、精神的にも甘えてしまうと思います。だから、働くということは、経済的に自立することの第一歩だと思います。

とりあえず、広すぎて不便だと思うことがありますね。  
でも、この前の紅葉の時期は綺麗でいいと思いました。

### 広大で好きな場所

### 生まれ変わってなりたい職業

小さい頃は電気機関車の運転士になりたいと思っていました。  
今はER（海外ドラマ）が好きなので、医者もいいかもしれません。ERカッコいいね。

### 座右の銘

特にないですね。

### 趣味

ドライブに行ってそこで写真を撮り、温泉に入ること。  
特に富士山がお気に入りで行きます。

### 自慢の品

羽田に着陸する直前の機内から撮った富士山の写真！

言語変容論／現代英語語法演習／英語の歴史  
コミュニケーション・ライティング／チャレンジングTOEIC(R)／コミュニケーション I A・II B

### 担当科目

私の場合、大学で働くというのは、ずっと決めていて、好きなことでご飯が食べられるというの、この世の中で一番贅沢なことだと思うんですよ。毎日それをやっていればいいんですから。また、教える立場にいるということ、主流のものだけ見ないということを心がけています。だから、主流派の意見ほど疑ってやろうという気になります。研究にしても、僕はみんながやっていることをやってもつまらない、面白くない、と思うところがあります。要するに、へそ曲がりです（笑）。

### 総科生にメッセージを。

僕は4月に徳島大学から来たばかりなんですけど、やはり徳島の学生とこの学生では、学生氣質が違います。そして、広大の学生はプライドが少し高いように思えます。それはもちろん実力があるということなのかもしれないけど、もし実力がともなうってプライドが高いのならば

それはそれでいいんです。しかし、プライドが高すぎると上から目線を持ってしまう、その人の成長の邪魔をしてしまうと思います。学問の分野も最初は「習い事」の部分があるよね。その時点ではある程度素直になつて、つまり子供のように、言われたようにやるという部分も必要で、またそういう人が基礎の部分でよく伸びたりするんですよ。そしてそこから先はオリジナリティが必要になってくるけど、基礎の部分がちゃんとできていないと、それはできないでしょう。何が言いたいのかというと、謙虚に基礎の部分をも身につけて、それができてから独自で考えてくれると良いかな、と思います。人の後追いというのは、それはそれで終わってしまうから、よそにないものをやる、そういう学生になって欲しいです。

### 【担当】

21生 林田 啓蒼  
21生 平野 詩歩  
22生 井上 知紀  
22生 恩田 怜



## 研究内容とは？

私の研究は物質学です。物質というのは、水のように温度を変えると状態が変わります。固体になると原子が集まる、これは原子と原子の間に引っ張る力があることからきます。多くの固体では原子は規則正しい構造を取りますが、温度が変わるとその構造も変わります。しかし、どうして構造が変わるかということ調べるには、原子の立場で調べないと分からないのですが、原子が止まっている状態では構造は分かるけど、どんな力がお互いに働いているかは分からないのです。私の場合には実験なので、物質の中の原子の運動状態が見える方法が必要になります。それには、外部から光を与えて原子の振動数を測定します。振動数がゆっくりだとお互いに働く力は弱い、速いと強いということが分かります。つまり、原子の運動状態を見ながら、物質が示す変態がどうして起きているか、その原因の解明をしています。

## Professional

## 総合物理プログラム

う だ が わ ま さ ゆ き  
宇田川 眞行 先生

*Sougou Kagaku*



## 研究までの道のりは？

現在は、自動車の水素燃料を目指した水素貯蔵物質、熱電変換材料などのエネルギー関連物質を原子レベルで主に調べています。

卒業論文では電気磁気効果（注）をしたかったんですが、大学の研究室では研究できなくなり（先生とけんかして追い出された訳ではありません）、外部の研究所に行つて、現在まで行っている光を使った実験に出会いました。それまでは光は嫌いだったのですけど（笑）。そこでは、四年生の卒論と修士の二年間お世話になりました。ちなみに修士で扱ったのは磁性体です。理論はできないと思っていたので、実験でダメだったら修士で就職しようと考えていました。でも実験が非常におもしろくなり、博士課程に行きました。博士課程では誘電体の研究をしました。終了後は就職がなく1年半くらいぶらぶらしていました。でもアメリカの友人

に誘われて、渡米しました。ア

メリカでは、表面の研究をしました。研究手段は同じだったのでなんとかまりました。アメリカに1年半いた後に総合科学部に来ました。総合科学部では、超流動ヘリウムについて13年くらい研究したのですが、研究費が足らなくなつて、今の研究分野に辿り着きました。いろいろな物質の研究をしました。実験手段はほとんど同じであつたのが幸いして、物質を全体的に見ることができるようになりました。

学部専門教育で思ったことですが、物理学を学ぶ場合、熱力学や量子力学など分けて勉強しますが、全体像が分からず納得できませんでした。しかし、指導の先生に物理学の考え方を鍛えられて、物理の本当のおもしろさがそれなりに分かつたように思います。

## 学生時代は？

基本的には遊び人だと思っています。本当によく遊んだと思

## Professional Introduction

います。ただ、救いは凝り性なので、勉強する時はするし、遊ぶ時は遊ぶ、どっちも徹底していましたね。この集中力は十分遊んできたことからついたように思えます。幼稚園のときから遊んでばかりいましたからね（笑）。ただ分からないことを自分なりに調べることは好きでした。小・中学校での知識の押しつけは嫌いでした。だからブラモデルを作る時もマニュアルどおりに作らないで（笑）。総合科学部に来て旋盤などの金属工作をずいぶんしましたが、小さい頃の模型作りが役に立ったように思います。

## 働くというとは？

基本的に、就職と働くことはちよつと違うと思うんです。チャップリンによると、食えること・働くこと・愛することが一番重要と言っています。つまり食えることと働くことは同じではないと言うことです。食えることは生命を長らせる上で必要な行動ですが、働くことは人

## 趣味

基本的には遊ぶことですが、一番の趣味は研究ですね。  
あとは映画やスポーツも好きで、今は下手なりにテニスをやっています。

オーケストラの指揮者。能力があったら最高だと思うね（笑）。

生まれ変わってなりたい職業

## 広大で好きな場所

特にありませんが、あえて言えば、天気の良い日に、池の傍のベンチでひっくり返って寝たいです（笑）。

## 自慢の品

修士での英語の論文が比較的評判が良かったこと。  
僕の研究の原点はそこからですね。

## 座右の銘

一期一会。

## 担当科目

物質科学の最前線／物理概論／物理学実験／電磁気学 I

間として生きていく上で重要な行為だと思います。つまり、生き甲斐を与えてくれるものが働くという行動で、人間としての生存権のように思います。ですから会社で就職して、労働に対するお金をもらうわけですが、食べるために働いているようで、本来の喜びと繋がらなければいけないのだけれど、今はそうとも言えませんが、しかしはつきりいつて食ばなきゃいけない（笑）。たとい大變でも、何とかして自分の中に生きる糧をもつて、仕事ができることができれば良いと思います。ただ、決して人間は一人で生きているわけではないので、その職場が今より少しでも良くなるように、という精神で働いたらいいと思います。ひいては家庭を良くすること、会社を良くすること、最終的には日本全体を良くすることになりますから。

## 総科生にメッセージを

基本的に僕は、一期一会だと思っんです。同じ人でも、時間

が違えば状況は変わるので、その瞬間を考えることは、生きていることの証ですから。あと、今より環境を良くすること。みんなが少しでも良くなるようなことを考えて、主体的に行動してください。授業でも、じゃんじゃん質問しなさい（笑）。受け身にならず、わかんないことはわかんないって聞いてほしいのです。どの先生も感じてほしいと思いますが、質問してくれたほうが学生さんに説明しやすいですよ。さらに、社会に出ても同じと思いますが、分からないままやって上司に怒られても、あほな話ですから（笑）。上司が何を要求しているかをちゃんと把握するためには、ちゃんと質問して、必要なデータ持つことが重要です。同じことやつても怒られるのと、ほめられるのでは全然違うからね。生きていく上でも、質問することは大事です。

## 【担当】

21 生 林田 啓蒼  
21 生 久住 忠彦  
22 生 恩田 怜

## 研究内容は？

私の専門は運動生理学、特に運動時における体温調節機構に関する研究を行っています。この運動中の体温調節に関する研究は、古くから研究されていますが、最近では脳および中枢の仕組みが次第に明らかになり、またその関心が高まってきたことから、非常に注目されている分野でもあります。私の研究室では、ヒトおよびラットを用いて、運動中の体温調節の中枢機構に関する研究をしています。具体的にはラットの運動中の深部体温や脳内の神経伝達物質を測定し、それらの関連性について検討し、ヒトの実験では運動中の体温上昇が中枢に及ぼす影響などを検討しています。ラット以外、皆汗だけで頑張っています（ラットは汗をかくことができないので）。また私は長年サッカーに携わっており、その経験を生かし、現場でも使えるような「暑さ対策」を提案しています。先日行われたサッカー

## Professional

スポーツ科学プログラム

は せ が わ ひ ろ し  
長谷川 博 先生

Sougou Kagaku



## 研究までの道のりは？

のアジア杯もそうですが、近年の主要な大会では「暑さ対策」が重要になってきています。したがって、基礎的な研究と実際の競技現場における応用または実践研究の両方に挑戦しています。

大学時代、私は他大学の教育学部の体育専攻に所属していました。研究室の先輩でもあり部活の先輩でもある方に、運動実験を依頼され、実験に協力し、その内容に興味を持ったのが研究のきっかけです。そのうち自分自身が実験する側になり、ますます研究に対する興味が湧いてきました。また修士課程の時は自分の研究以外に日本サッカー協会の大きなプロジェクトに携われたこともこの分野に進む大きなきっかけでした。だから、初めから運動生理学をやりたいって思っ、大学に入っただけではないです。

携わったサッカー協会のプロ

ジェクトは、「暑さ対策」に関する調査研究や実験でした。調査内容は、暑い環境下における試合中に選手がどの程度動いているか、水分をどの程度摂取しているか、試合の前後で体重がどの程度落ちているか、ということでした。驚くべきことに、小・中・高の夏季に開催された全国大会では、選手達はほとんど水分を摂取しておらず、生体に大きな負担となっていたことが明らかになりました。そこで我々は報告書を作成し、それを学会やマスコミを通じて発表し、生体負担の大きさやルールなどの問題点を指摘しました。その甲斐あって、現在ではユース年代以下の暑い環境下の試合では、前半と後半にウォータースタレイクという、「水休憩」ができました。また人手が足りない時には、日本代表選手の体力測定にも協力しました。ちなみに冒頭の先輩とは、今でも共同で研究をしています。

## Professional Introduction

## 大学生生活は？

決して模範とまらない学生で、一般教養の授業は、関心が湧かずあまり真剣に受けていませんでした。言い訳になります。が、受講していた授業は大人数の一方通行の授業がすごく多かった。今で興味は湧きませんでしたが、今の分野の勉強に本腰を入れたのは専門分野の授業やゼミが始まる3年生に入ってからです。現在は教養教育の中心である総合科学部に所属していますので、昔の自分の苦い経験を生かし、大人数でも活性化する授業、学生が意欲的に参加する授業を目指しています（笑）。

博士課程は全く別の大学の理学研究科の生物学科に入学したので、生理学や神経生理学を最初から勉強しました。だから、博士課程の時はこれ以上ないくらい勉強と実験をしました。今の主な実験もそこで学びました。勉強のスタートが遅かったから、現在もまだ意欲もあって、ゼミの大学院生と

## 趣味

アウトドアです。夏はキャンプ、冬は学生と雪山にスキーやスノボに行ったりします。最近の学生はアウトドアギアをほとんど持っていないことに驚きました。

## 座右の銘

「関心」「感動」「感謝」の三カンを大事にし、と学生に言っています。この三カンは、スポーツであれ研究であれ大切です。

## 広大で好きな場所

グラウンドなど。現在女子サッカー部の顧問をやっていること、また自分が活動してきた場でもあるのでやはり愛着があります。しかし夏は暑く、冬は寒いけど（笑）。

## 生まれ変わってなりたい職業

雪山でのスキーガイド。またはラーメン屋。横浜の家系ラーメンが好きで、学生時代店を手伝ったことあるから、だいたいスープの作り方はわかります。

## 自慢の品

今の研究室の雰囲気。皆が失敗を成功につなげる努力をし、三カンを大事にしている、「一体感」があります！

## 担当科目

スポーツ科学  
スポーツ実習A  
環境運動生理学 等

一緒に勉強しているところですよ（笑）。

## 働くということとは？

様々な意見があると思います。ユニクロの社長の言葉を借りれば、「自分で生活費を稼ぎ、生活を安定させる。毎年自分が向上していけるような目標を持つ」ということです。広く考えれば「自立する」、ということだと思います。仕事をして自立をしないと、評価もされません。評価されるために生きていくわけではないけれども、働かないと生きてはいけません。特に親となり子供を育てるとなると、働くことに現実味が出できました。

## 総科生にメッセージを。

自分の体験から考えると、「失敗を成功につなげる」、ことが大事だと思っています。若い時は、人や周りの人たちが、失敗を許し、チャレンジできる環境を提

供してくれます。だから失敗を恐れずに、どんどんチャレンジすることが大切だと思います。そして、次にその失敗の経験を生かすことが大事です。スポーツで例えるなら「失敗しない選手は超一流。失敗してもそれを成功につなげる選手は一流。責任を転嫁して失敗を繰り返す選手は二流。そして、三流は自分の失敗した事すら気づかない選手」です。実際に学生を見てみると、失敗を成功につなげている学生と、そうでない学生の差というのは大きいと思います。総合科学部の学生は優秀だから、いろいろな事にチャレンジして、失敗して、それらを成功に導いて欲しいです。それは、スポーツであろうと勉強であろうと、個人であろうとグループワークであろうと、共通したことだと思います。

【担当】21生 林田 啓蒼

22生 恩田 怜



## 研究内容とは？

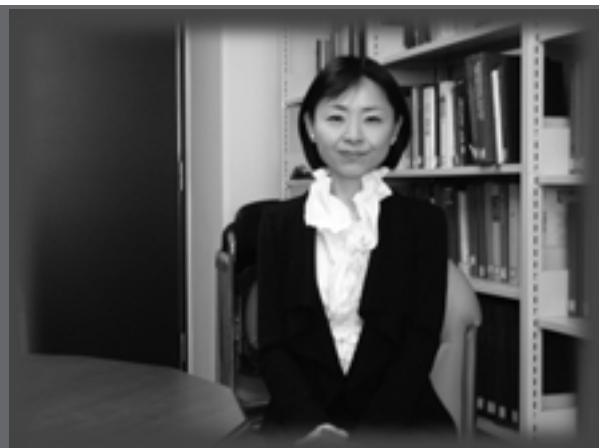
私の専門分野は、アメリカの環境政策です。誰がなぜ、あることを問題と感じ、その解決策を提案し、どのようにして政策となり実施されるのか、という政治学の分野で、アメリカの環境問題を研究しています。

アメリカは、京都議定書からの離脱などで、環境保護に積極的でない国というイメージがあるかもしれませんが、1969年に世界に先駆けて環境アセスメントを導入するなど、環境先進国でした。この制度を通じ、天然資源を保護するための画期的な政策が沢山生まれましたが、人間に与える影響についてはあまり議論されませんでした。しかし最近では、重要な文化財をどのように保護すべきか、という議論が環境アセスメントで行われるようになっていきます。

沖縄にいる海兵隊のグアム島移転計画を知っていると思いますが、昨年、この計画を含む基地拡充計画に関連して環境アセスメントが行われ、島先住民の

Professional

## 地域文化プログラム

いけだ かよ  
池田 佳代 先生Sougou Kagaku

チャモロ族の聖地をどのように保護するかが大きな問題となっています。今後、文化財保護を視野に入れた環境政策がどのように議論されてゆくのかを調べていきたいと思っています。

## 研究までの道のりは？

大学生の頃は、様々な学部のゼミや講義に顔を出して、国際政治に興味をもつようになり、それから海外で働きたいと思い、外務省を志望しました。

外務省では、語学研修制度でアメリカに行きました。私は恩師の勧めで、ブラウン大学大学院アメリカ文明研究科で、アメリカの民族問題やジェンダー問題、移民政策について学びました。

研修期間終了後は、グアム島の総領事館に配属されました。

赴任すると、ブラウン大学では取り上げたことのなかった、島とそこに住む市民に対するアメリカの事実上の「植民地」とも言えるほどの露骨な差別があることを知り、大変驚きました。

この島は19世紀末にアメリカ領

土となりましたが、1950年に島には未編入領土という変則的な地位、その先住民チャモロ人にはアメリカ市民権が与えられました。しかし州でないため、グアム島に住むアメリカ市民は大統領選挙に投票ができず、政治参加に大きな制約があります。なぜチャモロ人がこのような状況に置かれ続けているのか、もっと知りたいと思い、研修後仕事を辞め、大学院へ進学しました。

学位取得後は、JPO試験を受けて国連開発計画(UNDP)の職員になりました。マレーシア事務所に配属され、初めて環境問題の仕事に関わり、温室効果ガスの発生を削減するため、椰子油産業の廃棄物を利用した再生可能エネルギー技術を導入するプロジェクトを担当しました。マレーシアは発展途上国の中でも比較的経済成長を遂げていますが、環境よりも経済が重視されているため、政府の温暖化対策も、企業の利益を損ない、人々の経済的負担増に繋がれば、結局実行されません。どんなに良いアイデアや技術があつ

## Professional Introduction

でも、政治がそれを実現させなければ、それは実行されないのだということを感じました。

強いて言えば、マレーシアの仕事を通じて、環境問題を政治的に追及してみたいと思ったことが、現在の研究の動機となっているでしょうか。

## 学生生活は？

大学の専攻は言語学でしたが、他学部の授業やゼミも色々受講しました。その中で一番印象に残っているのは、国際政治のゼミでした。先生が多忙で休講も多かったのですが、『Foreign Affairs』の論文を皆で読み、討論していました。法学部の学生などはすごく難しそうなことを議論していた記憶がありますが、私は英語の論文を読むだけですごいことをやってるなー、という満足感に浸っていました（笑）。

## 働くということとは？

心構えとして、二つあると思います。

## 担当科目

コミュニケーションⅠA・ⅡA  
オーラル・プレゼンテーション  
都市文化論  
都市文化論演習  
英米社会論(国際関係)

## 座右の銘

自分の居場所は自分でつくれ。  
人から与えられるもんじゃない。

## 自慢のこと

あまりありませんが、強いて言えば訪れた外国の数は26カ国という事。

## 広大で好きな場所

研究室。

## 生まれ変わってなりたい職業

未来じゃなく、過去に生まれて、昔のことで見たいです。今だったら、先日ニュースになっていた邪馬台国の時代に生まれて、卑弥呼がどんなふうにして日本を統一しようとしたのか、確かめてみたいです。

## 趣味

海外旅行、と言っておきます。ここ数年行っていないけど、一時期は1年に4、5回行っていました。

一つは、特にUNDPにいた時に痛感しましたが、自分の仕事やポスト、居場所は自分で確保する、という意気込み。国際機関は短期契約が多く、ポストがなくとも多いです。でも、自分がこのポストを作り予算をとるんだ、という意気込みで仕事に打ち込む人は、すごく良い仕事をしていました。そんな意識を持てば責任感も出て、自分の仕事だという感覚が沸き、楽しくなると思います。また、あなたが仕事を離れる時、できるだけ大きな穴を作るつもりで仕事をしなさい、とも上司から言われました。つまり、自分の代わりのきかない仕事やれ、ということ、そのために人脈は財産だ、と言われました。自分で人脈を作り、情報を得るという努力をしる、ということだったと思います。

二つ目は、社会で働くということは、ある意味、育ってきた環境や経済状況、価値観や考え方が全く違う人が一緒に働くということ。言葉も文化も違う海外勤務では、こういう

時こそ人間の基本的な部分を大事にすることが大切だ、と思いました。挨拶に始まり、誕生日におめでとうを言い、人の良い所を認めて尊敬する。また、人前で非難してその人の面子を潰さないことも大事です。そういう小さな心配りや思いやりをもつて人と接すれば、あの人は人間として信頼できる、という信頼関係が出来てくるように思いました。

## 総科生にメッセージを

私は自分が興味の赴くままに仕事や学問をしてきた人間なので、偉そうなことは言えませんが、人生にモデルはないということでしょうか（笑）。自分としては、人と比較せず、自分の人生を作っていたら良いかな、と考えながらやってきました。今は就職難の時代だけど、先程も言った通り、自分の仕事を作るという気概を持っていれば、どんな形であれ、道は切り開けるんじゃないかな、と思います。

【担当】21生 林田 啓誉